

精神看護領域における高度実践看護事例検討会

—事例を通じて精神看護専門看護師の思考と判断のプロセスを可視化する—

○松村 麻衣子^{1,2)}、三井 督子^{2,3)}、馬場 華奈己^{2,4)}、本武 敏弘^{2,5)}、遠藤 恵美^{2,6)}、
白井 教子^{2,7)}、下野 史子^{2,8)}、高木 美歩^{2,9)}、小野寺 悠斗^{2,10)}、河野 佐代子^{2,11)}、
中村 創^{2,12)}、寺岡 征太郎^{2,13)}、武用 百子^{2,14)}

1) 大阪信愛学院大学、2) 日本精神保健看護学会 高度実践活動推進委員会、3) 京都大学大学院、4) 大阪公立大学医学部附属病院、5) 福岡女学院看護大学、6) 横浜市立大学附属市民総合医療センター、7) 北里大学病院、8) 国保直営総合病院 君津中央病院、9) 一般社団法人メンタルヘルスサポート九州 訪問看護ステーションアトラス福岡、10) 湘南医療大学、11) 慶應義塾大学病院、12) トキノ株式会社、13) 帝京大学、14) 大阪大学大学院

高度実践看護師活動推進委員会は、精神保健看護領域における高度実践看護師（主に精神看護専門看護師）の役割を明らかにし、活動を推進することを目的として設置されました。本委員会では、精神保健看護領域における高度実践看護師の活動状況や成果を把握するための研究を中心に、本邦における高度実践看護制度の在り方について検討を進めています。

精神看護専門看護師は、個別事例への直接ケアに加え、コンサルテーションや調整、教育などチームや組織への働きかけを通して、ケアの質向上を支えています。しかし、こうした実践の多くは暗黙知として行われており、「専門看護師として何を見て、考え、どのような判断のもとに行動しているのか」という思考プロセスやコンピテンシーは、十分に可視化されているとは言えません。

本ワークショップでは、精神看護専門看護師が行っている思考と判断の過程を、事例検討を通して言語化・共有することを目的とします。事例そのものを詳細に検討することよりも、専門看護師の視点、思考、判断のプロセスに焦点を当てて進めていきたいと考えています。

具体的には、専門看護師が行っているアセスメントの視点、コンサルテーションプロセス、組織分析、介入方法や内容の判断とその根拠を、参加者とともにたどっていきます。これにより、「高度実践看護」という抽象的な表現の中で見えにくくなっている実践の具体的な内容と、その根拠を可視化することを目指します。

なお、本ワークショップで取り扱う事例は、企画者

らの臨床経験に基づき複数の事例を踏まえて構成した架空の模擬事例であり、実在の患者や関係者の個人情報を含みません。事例検討にあたっては、参加者の発言内容や立場が尊重されるよう配慮し、安全に意見交換が行える場の確保に努めます。また、記録・撮影等については学術集会の規定に従い、個人が特定される情報が残らないよう十分に留意いたします。

本企画は、精神看護専門看護師のスキルアップを支援するとともに、高度実践看護師の役割や価値を共有・発信する機会として、専門看護師活動の推進に資するものと考えます。

精神看護専門看護師として活動している方をはじめ、本企画にご賛同いただける方であればどなたでもご参加いただけます。みなさまのご参加をお待ちしております。

なお、本ワークショップの企画・運営に関連して、開示すべき企業・団体等との利益相反関係はない。